

日本老年精神医学会専門医への特発性脳内石灰化症患者（IBGC）に関する疫学調査

研究分担者： 塩入俊樹（岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学分野）

研究協力者： 栗田尚佳、位田雅俊、保住 功（岐阜薬科大学大学院薬物治療学）

研究要旨

我々はこれまで、倫理委員会の承認のもと、日本神経学会、日本小児神経学会の協力で、IBGC 症例に関する全国疫学調査を行い、患者から同意書を得て、IBGC の症例、検体の収集を行ってきた。本調査ではさらに、日本老年精神医学会の協力を得て、生前診断の難しい diffuse neurofibrillary tangles with calcification (DNFC、小阪・柴山病)を含む、特に高齢者の IBGC 症例のアンケート調査を施行し、実態の把握、検体収集を行うことを目的とする。アンケートは平成 26 年 12 月中旬に送付し、平成 27 年 1 月 31 日現在において、アンケート回収率は 18.7%であった(送付総数:884 通、返信数:165 通、宛名不明:3 通)。返信があったアンケートにおいて、現時点までで報告があったのは 37 症例であり、症例数は性別では男性に比べ、女性の方が 3 倍程多く、年齢では、主に 60 歳から 90 歳の年齢層に分布していた。これらの 37 症例については、既に 2 次調査（具体的な症状、脳内の石灰化部位・程度など）を行っており、現時点で 2 次調査の回収率は 56.8%(返信数:21 症例)となっている。今後も引き続き、アンケート結果の収集、2 次調査、検体協力を目的とした 3 次調査を行い、実態の把握と検体収集を行っていく予定である。

A. 研究目的

我々はこれまで、倫理委員会の承認のもと、日本神経学会、日本小児神経学会の協力で、全国疫学調査を行い、患者から同意書を得て、IBGC の症例、検体の収集を行ってきた。本調査ではさらに、日本老年精神医学会の協力を得て、生前診断の難しい diffuse neurofibrillary tangles with calcification (DNFC、小阪・柴山病)を含む、特に高齢者の特発性脳内石灰化症症例のアンケート調査を施行し、実態の把握、検体収集も行うことを目的とする。

B. 研究方法

日本老年精神医学会の協力を得て、専門医

へ IBGC 症例に関するアンケートを送付した(総数:884 通)。さらにアンケートにおいて報告があった症例について、2 次調査、3 次調査を行い、DNFC を含む IBGC の実態把握、検体収集を行う。研究計画、アンケート調査は、岐阜大学および岐阜薬科大学の倫理審査委員会の承認を受けた上で実施した。

(倫理面への配慮)

アンケート調査および研究計画は岐阜大学および岐阜薬科大学の倫理審査委員会の承認を受けた上で実施した。

C. 研究結果

アンケートは平成 26 年 12 月中旬に送付し、平成 27 年 1 月 31 日現在において、アンケー

ト回収率は 18.7%であった(送付総数:884 通、返信数:165 通、宛名不明:3 通)。返信があったアンケートにおいて、現時点までで報告があったのは 37 症例であり、症例数は性別では男性に比べ、女性の方が 3 倍程多く、年齢では、主に 60 歳から 90 歳の年齢層に分布していた。これらの 37 症例については、既に 2 次調査(具体的な症状、脳内の石灰化部位・程度など)を行っており、現時点で 2 次調査の回収率は 56.8%(返信数:21 症例)となっている。

D. 考察

現時点では、まだアンケート調査は継続中である。今回の報告は途中経過報告であり、今後、さらに症例数が収集できれば、DNIC を含む、特に高齢者における IBGC 患者の実態を明確に把握することができると考えられる。

E. 結論

今後も引き続き、アンケート結果の収集、2 次調査、検体協力を目的とした 3 次調査を行い、実態の把握と検体収集を行っていくことが重要である。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし(準備中)

2. 学会発表

(学会は未発表)

・第 5 回特発性脳内石灰化症班会議(平成 27 年 2 月 7 日、岐阜市)にて報告した。

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし